

## 奈路地区市政懇談会

# ◆◆◆ 奈路小の ◆◆◆ 早期改築を



二時間にわたって熱心に話し合った

公民館事業の一環として、十一月二十日、奈路公民館（川村雪子館長）で市政懇談会が開かれました。市からは小笠原市長、浜田助役ほか、関係各課長ら十一人が出席。地区からは約二十五人が出席して、県道改修の問題や奈路小学校の改築問題などについて二時間

余りにわたって話し合いました。また、同時に支所廃止についての説明会も行われました。

まず、小笠原市長が市政の現状を報告。続いて企画財政課長が行政改革の必要性を説明して、支所廃止に対する理解を求めるとともに、廃止した場合のサービス低下をどうやって最小限に食い止めるかを説明した後、話し合いに入りました。内容は次のとおりです。

○県道南国伊野線の早期改修を。

●県と協議しており、県も早急に土佐山村へ抜けるように力を入れている。関西橋から公民館までの約三百メートルについても早く拡幅してくれるよう要求してある。職員七人（有効職員五人）の道路を考えている。地元でもどのように道を通つたらよいか、もう少し具体的に話を詰めてもらいたい。

県単事業であるので若干年数がかかるが、やっつけてもらうという方向で話を進めている。六十二年度には詳細設計をして、一部用地買取にかかるとなっている。

○奈路小学校の校舎は計画通り完成してもらいたい。また、運動場に夜間照明を。

●小学校の敷地造成は十二月に完

了するが、無理をして埋め立てたので、水系をかなり下に出している。そのため、地盤沈下や伏流水などの状態を見ても必要がある。土地の見直しがついたので、今後、実態を踏まえて改築へ話を進めていきたい。

夜間照明についても合わせて検討する。

## 支所廃止に向けて 市内6カ所で説明会

十一月二十日から十二月三日にかけて、支所管内六カ所で、支所廃止に向けて住民の理解を得るために、市長、助役、収入役、関係各課長らが出席して、説明会を行いました。

十月には支所廃止について、支所管内から五世帯に一世帯を任意抽出し、世帯主を対象としてアンケートを実施。三十五軒の方が回答した中、廃止反対は五十一票、条件付きも含めて賛成は四十六票

了するが、無理をして埋め立てたので、水系をかなり下に出している。そのため、地盤沈下や伏流水などの状態を見ても必要がある。土地の見直しがついたので、今後、実態を踏まえて改築へ話を進めていきたい。

夜間照明についても合わせて検討する。

でした。

低成長時代の中で、市の財政力が低下している一方、市民の要求は多様化しています。そこで、現在市では、限られた財源をできるだけ有効に活用するため、行政改革に取り組んでおり、次の三点について重点的に検討しています。

①機構の整理と合理化、②制度、事業等の見直し、③職員の定数、給与等の見直し。

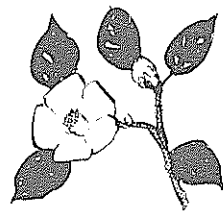
その中には、支所廃止についても取り上げられています。その理由は次のとおりです。

○行政事務の範囲が広がって、市役所へ行かなければ手続きできないことが多くなった。

○一つの手続きが支所だけで終わることが少なくなった。

○支所で取り扱っているのは本来一人ぐらいで対応できる量であるが、個人情報保護等の問題もあって複数配置している。

○現在、地域の核となる施設は、



公民館、農協、学校等である。

○三支所とも老朽化が進んでいる○自動車等の普及によって、距離感がさほど感じられなくなった。

説明会では、まずそのような市政の現状を報告。また、廃止した場合のサービス低下の対応策として、①郵送や電話を利用する、②職員を利用する、③農協に申請書を置く、④交通機関の接続がスムーズになるよう要望する、などをあげました。

それに対して住民からは、○本庁まで行くのに不便である。○駐車場の余裕はあるのか。

○まず他の機構改革等を行ってから支所廃止を言うべきではないかなどの声が上がりました。

「廃止もやむを得ないのではな

いか」「絶対反対」など、様々な意見が出ましたが、検討した結果、時期尚早のため、今回は議会に支所廃止を提案することを見送ることになりました。